きれいにするには道具よりも方法が大切

プロはどんな洗車道具を使うのか

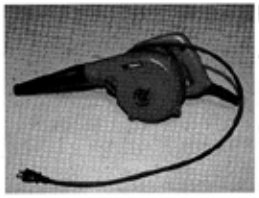
洗車のプロというと、一般の人にはなかなか手が入らないような、すごい装置を使っているのではと思うかもしれない。だが山田さんが実際に使っていた道具は、ホームセンターなどに行けば誰でも入手できそうなものばかりだった。本当にこれでうまくいくのだろうか。

■農作業用の噴霧機

●水は背中に背負うタイプの噴霧機を使ってかける。バッテリー付きの電動式で、本来は果物や野菜に農薬を散布するのに使う道具だが、ステッカーなどがはがれてしまうことなく水をかけられるという点では確かにうってつけだ

■水分を素早く飛ばすブロワー

●洗車後に水分が残ったままだとサビの発生の原因となったり、レンズ効果による塗装面へのダメージである"ウオータースポット"と呼ばれる水滴が乾いた跡が残ったりして何かとやっかいなので、水洗いしたあとはブロワーを使って素早く吹き飛ばす



■ブラシや高圧洗浄機は使わないのが山田さん流

●今回のメニューは「手洗い洗車」(1490円。作業時間目安約45分～)で、これだけの道具で外装からホイール、スイングアームまでひととおり洗ってくれる。車体の下まわりに関しても、ただでさえ汚れやすいのに、ブラシを使うとブラシでつけた傷が原因で汚れが付着しやすくなるため使わないそうだ

■洗車の前に傷の確認

●洗車する前にハンドライトで車体の表面に光を当て、一見しただけではわかりにくいが傷の発生状況を確認しておく。光の当たり具合で見える傷と見えない傷があるので、かなり入念に行なう。これはバイクに限らずクルマでも行なう作業のひとつ。また水でぬらしてはいけない部分はあらかじめ養生しておく

■幾多の製品を試した結果、洗剤はこれが1番という結果に

●洗剤は山田さんがいろいろなものを試してきた結果、1番汚れがよく落ちたという「Nシャンプー」(200ml入り1080円)を使用。右はコーティング剤「マジックガラスコーティング」(50ml 1598円～ 200ml 5378円)。バケツは2つが汚れ落としのマイクロファイバー用(うち1つがひどい汚れ用)、1つはシャンプーの泡立て用

以前は出張洗車、お客さんのところに出向いてクルマを洗う仕事をしていた山田さんは、2013年1月に同店をオープン。最初は知名度が低く、利用者もほとんどいなかったが、最近では普段秋葉原に来ないような人も訪れるようになったという。それだけ評価が高まってきたということだが、洗車という言葉のイメージとは裏腹に、山田さんが使う道具は思いのほか少なく、一般の人が使うのと変わりないというか、むしろ一般の人より少ない。

「場所柄、水を大量に使うわけにいきませんし、例えば水を100ℓ使えばいいかというとそうではない。少ないぶんはシャンプーの洗浄力でカバーできますし、要は道具の使い方、合わせ方です。これだけでもだいぶ変わってきます」とのこと。特に砂や泥、チェーンルーブなどの油分が入り交じって汚れやすい下まわりはブラシでゴシゴシ磨きたくなってしまうが、長い目で見た場合決していい方法とは言えないという。

「表面に傷がつくことで、砂や泥といった汚れが付着しやすくなります。それを落とそうとしてブラシで擦るとさらに細かい傷が増えてしまい、まさに負のスパイラルに陥ります。大切なのはとにかく力を入れすぎないこと。汚れているとついグリグリと擦ってしまうじゃないですか」

ではどうすべきなのか？　次のページで紹介する。

水と洗剤だけで十分

洗う前にできるだけ汚れを落とす

■虫取りスプレーをかける

●虫の死骸は普通の洗剤ではなかなか落ちないため、洗車前に虫取り専用の洗剤(四輪用として流通)を吹き付けておくことで、磨く必要もなくきれいに取ることができる

水が少ないから穴をふさぐ必要もなし

●普通に水をかける洗車法ではマフラーの排気口をふさいだり、スイッチ部分などに水が入らないようにあらかじめマスキングしておく必要があるが、水圧が低い山田さんの洗車法であればそれらの対策は不要となる。一定の時間内に効率よく作業を行なえることも大切なメリット

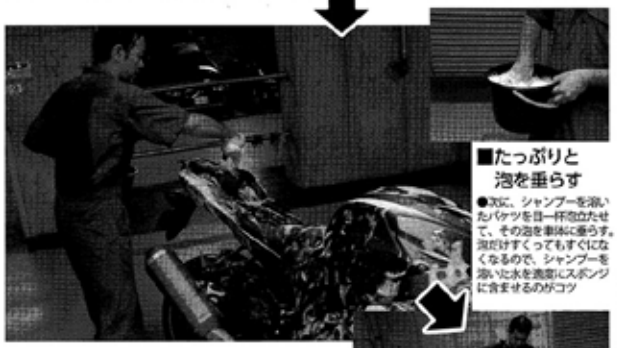
■水をかける

●噴霧機を使って水をかけて、表面に付着したほこりや砂粒などをある程度洗い流しておく。これをやっておかないと後の作業で塗装面などに細かい傷をつけてしまう原因になる

CHECK

駐車場なので多量の水はNG

●写真からはわかりにくいが水の量はかなり少なく、このようにウエスで吸い取れる程度。住宅環境の事情などで大げさに洗車できないという人にもお勧めの方法だ



■たっぷりと泡を垂らす

●次に、シャンプーを溶いたバケツを目一杯泡立たせて、その泡を車体に垂らす。泡だけすくってもすぐになくなるので、シャンプーを溶いた水を適宜にスポンジに含ませるのがコツ

■1回泡を洗い流す

●泡わずそのまま泡を洗い流す。もったいないと思われるかもしれないが、傷をつけないためにも大切な作業だ。これでも表面に付いたホコリや砂粒、油分が泡に落とされる

■再び泡を垂らしてから洗う

●直接スポンジを使って汚れを取り除く。洗う順番は上から下で、ホイールやスイングアーム、下まわりなども含めてすべてスポンジだけを使って洗うのが傷をつけない秘訣だ

磨く前に洗い流すことが大切

虫はこういうところに付きやすい

●虫は車体正面、ヘッドライトまわりやフロントフェンダー、アンダーカウルの前面などに集中して付着する。ラジエーターやタクト、エンジンの前面などに関した部分にも付きやすいので要チェック